

0952-22-9281/ 内線電話 2916/fax 0952-22-9286

E-mail:LDP03673@nifty.ne.jp <http://union-saga-u.my.coocan.jp/>



組合に入り
ましょう！

全国大学高専教職員組合青年学習交流集会報告

8月18日～19日に東京で開催された標記集会に佐賀大学教職員組合より1名参加しましたのでその報告を紹介いたします。

2018年8月18日、19日に東京都台東区の谷中防災センターにて開催された全大教青年部の青年学習・交流集会に参加しました。今回から全大教規約改正によって、すべての全大教加盟単組に所属する組合員が参加可能となったことから、参加人数は16単組の大学・高専から22名、実行委員を含めて計29名と、比較的大勢の方が参加されていました。

一日目は交流会として、青年部長挨拶、基調講演が行われ、その後に地域散策を通して交流を深めるプログラムでした。

青年部長の挨拶では、「組合活動として、交渉は、『法律がこうなっているからそれに沿った要求を行う』ものではなく、『皆の望んでいることを要求することが重要』であり、法律はその下支えに用いるもの」とのお話と、九大で組合活動されていた際のエピソードとして、人事勧告で給与が削減された際に、削減分を、一見、組合員にメリットがあると思えない「学生支援のために使うよう要求をした」ことにより、職員の給与削減阻止には至らなかったのにも関わらず、スタンスに賛同された方から組合加入者がいたことが事例として紹介されました。

基調講演では、中央執行委員の方が、松江高専での事例を報告されました。「組合は教職員の困ったことを解決していくのが役目」であるとして、技術職員の待遇改善、人事院勧告の見直し(地域手当)、豪雨災害における特別休暇の取得等の成果が報告されました。中でも、『(組合に)加入すること自体が役に立つ』と言われたことが印象的でした。

二日目の学習会では、グループワークが行われました。テーマを『若手職員を取り巻く諸問題の提示から提案へ』として若手職員の悩み事は何か、それを解決するにはどうすればよいかを、マインドマップ、ブレインストーミング、ペ

イオフマトリクス分析、PMI分析の手法を持って議論が行われました。「若手が抱える問題を洗い出し」、「ポジティブなアイデアを挙げて」、「優先させるべき事項をまとめ」、「メリット・デメリット・面白い気づきにまとめる」検討を行う手法です。発表された意見としては以下のようなものがあります。

1. 休みの取りやすい仕組み・可視化・改善
休日の積み立てのような仕組みを要求する。有休消化率が交渉のネタになる。
2. レクリエーション(この提案が最も多く挙げられました)
婚活パーティのような若手が参加しやすいイベント行うことで、人脈が広がる。
3. 世代間ギャップの是正
若い人の(組合)役職を減らす、若い人の感性に合わせた組合になる。
4. 上司・若手に対する働きかけ
様々な勉強会等を開く機会を作る。加入を期待するようなものではない。
5. 情報共有(ライングループの活用)
組合活動の見える化が重要。若い人はラインなど新しいものに比較的馴染みやすいので、活用するのも手。

短い時間ではありましたが、多くの方と公私に渡る様々な話をする事で交流ができたこと、各単組や所属組織、個人レベルで抱えている問題等について議論を行い意見交換をすることができ、大変有意義な集会でした。



全大教九州地区第15回教職員研究交流集会 参加報告

8月25日(土)～26日(日)に長崎大学医学部で「心身ともに健康で生き生きと働き続けるために働き方を考える」をテーマに開催された「全大教九州地区第15回教職員研究交流集会」に組合から5名参加しました。初日は、記念講演と職種別分科会が開催され、二日目にはテーマ別分科会が開催されました。

記念講演：働き方改革法後の働き方～本当に「人間らしく働くこと」を実現するために～
半田望 弁護士(九州労働弁護団)による講演が行われました。先の国会で成立した「働き方改革法」は、「働かせ方改革法」であるという問題の本質を突く指摘がなされ活発な質疑応答がおこなわれました。講演後には、「過労死遺族の発言」の紹介と「過労死防止キャンペーン曲の合唱」も行われ、残された家族の思いを綴る歌声に、参加者が思わず感涙してしまう場面もありました。



その後、5つの職種別分科会と、翌日には5つの問題別分科会が行われました。

非常勤職員分科会では、まず、全大教からの報告が行われ、労働契約法改正により「原則無期転換」する大学が20大学と高専機構、首

都大学であることと、東北大学の非常勤職員の大量雇い止めについて報告されました。さらに有期雇用職員の待遇を改善させるための「厚生労働省」の「同一労働同一賃金ガイドライン案」は、休暇制度や賃金の改善の根拠になるのではないかと紹介されました。その後、各大学から非常勤職員の問題について報告が行われました。



二日目のテーマ別分科会の一つ「メンタルヘルス分科会」では、長崎大学の保健医療推進センターカウンセラーの田中育美先生を講師に迎えて進められました。まず、「心身ともに健康で生き生きと働き続けるために」と、この問題についての説明が行われました。「メンタルヘルスの基礎知識フィジカルな問題とメンタルな問題」の違いやメンタル不調に対する誤解や職場での対策について紹介があり、「一人きりの思考に陥らないで、誰かに話そう」と、公的な相談窓口なども紹介されました。その後、参加者のそれぞれの悩みが出されて、カウンセラーの先生も一緒に考える場になりました。

分科会の参加者からは、「参加して良かった」という感想も出されました。

来年は、大分大学教職員組合が当番で開催されますので、皆さんどうぞご参加ください。

グリーンランド(熊本県荒尾市緑が丘)の特別入園券を取り扱っております!

おとな 当日料金 1,600円→1,300円へ こども・シニア料金 800円→650円へ

*おとな：高校生以上 こども：3歳～中学生 シニア：65才以上

詳しくは組合事務室まで!

